

- 問1 間接金融の仕組みにおいて、銀行が預金者に支払う利息よりも、企業などの借り手から受け取る利息を高く設定している目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
1. 日本銀行による金融政策を反映させ、世の中の通貨量を一定に保つため

2. 預金から貸し出しまでの仲介に伴うコストや、銀行自身の利益を確保するため

3. 企業の株主が受け取る配当金を増やし、直接金融の市場を活性化させるため

4. 預金者が銀行を介さずに企業へ直接投資を行うことを促すため
- 問2 銀行などの金融機関が、家計（個人）から預かった資金を企業などに貸し出す際、受け取る利子（金利）と預金者に支払う利子の関係として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 景気が悪化したときのみ、預金者に支払う利子の方が高くなるように設定される。

2. 貸し出す際の利子と預金者に支払う利子は、常に同額になるように国によって指定されている。

3. 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも低く設定されている。

4. 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも高く設定されている。
- 問3 日本銀行が景気の停滞している際に行う政策について、その仕組みを説明した文として最も適切なものはどれですか。日本銀行が一般の銀行に対して国債を買い入れる「買いオペレーション」を行う場面を想定して答えなさい。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
1. 政府が公共事業への支出を増やすことで、民間の有効需要を作り出し、失業者の減少と景気の回復を図る。

2. 政府が所得税や法人税などの増税を行うことで、過熱した景気を冷やし、物価の安定を図る。

3. 日本銀行が銀行から国債を買い取ることで、銀行が保有する資金量を増やし、金利を下げさせることで経済活動を活発にする。

4. 日本銀行が銀行へ国債を売り出すことで、市場の通貨量を減らし、金利を上げさせることで物価の上昇を抑制する。
- 問4 日本銀行が行う公開市場操作のうち、不景気の時に行われる、日本銀行が民間銀行から国債などを買い取ることで通貨量を増やし、利下げを促す政策の名称として正しいものはどれですか。 (2021年 鳥取県公立入試 類似)
1. 買いオペレーション

2. 売りオペレーション

3. 円高誘導

4. 預金準備率操作
- 問5 日本銀行が不景気の際に「買いオペレーション」を行う目的と、その仕組みとして正しい説明はどれですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
1. 銀行の保有する資金を減らすことで、過度な設備投資を抑え、景気を安定させるため

2. 政府の借金である国債をすべて買い取ることで、国の財政赤字を解消するため

3. 市場から通貨を回収することで、急激な物価の上昇（インフレーション）を抑制するため

4. 市場に流通する通貨量を増やすことで、企業が資金を借りやすくし、景気を向上させるため
- 問6 景気が過熱し、物価が上昇し続けるインフレーションを抑制しようとする際、日本銀行が実施する「公開市場操作」と、それによって生じる社会の変化について正しく述べたものはどれか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 日本銀行が民間銀行から国債を買い入れ、市場に大量の資金を流すことで、金利を下げて消費や投資を促す。

2. 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売却し、市場の資金を吸収することで、企業への貸し出しを抑制し景気を冷やす。

3. 日本銀行が通貨の発行を一時的に停止し、通貨の価値を強制的に高めることで、輸入製品の価格を下げて物価を安定させる。

4. 政府が所得税の増税や公共事業の削減を行うことで、社会全体の需要を抑え、物価の上昇を食い止める。
- 問7 日本銀行が公開市場操作によって民間銀行から国債を買い取り、市場に流通する通貨量を「増やす」操作を行った場合、その後の金利の変化と経済への影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 長野県公立入試 類似)
1. 利子率（金利）が上がり、企業の設備投資や個人の消費が促される。

2. 利子率（金利）が下がり、企業の設備投資や個人の消費が抑制される。

3. 利子率（金利）が上がり、企業の設備投資や個人の消費が抑制される。

4. 利子率（金利）が下がり、企業の設備投資や個人の消費が促される。
- 問8 近年普及が進んでいる金融と技術を融合させた新たな動きが社会に与える影響について、説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 現金を使わない決済手段が増えることで、金融機関を通じた取引がすべて不要になり日本銀行の役割がなくなります。

2. インターネットを用いた取引に限定されるため、窓口や店舗での金融サービスがすべて廃止され利用者の負担が増加します。

3. 暗号資産などの新しい技術が導入されることで、紙幣や貨幣の発行が完全に廃止され現金取引が禁じられます。

4. 情報通信技術（ICT）を活用することで、振込や決済などの金融サービスをより迅速かつ低コストで利用できるようになります。
- 問9 かつて行われていた「物物交換」と比較したとき、社会に貨幣が普及したことで得られた経済的な利点として、適切な説明はどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
1. 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。

2. 貨幣があれば労働をする必要がなくなり、社会全体の生産性が飛躍的に向上した。

3. すべての商品の価値が貨幣の素材（金属など）の重さだけで決まるようになり、価格変動がなくなった。

4. 貨幣自体が食べ物や衣服のように生活に直接役立つため、交換しなくても豊かになれるようになった。
- 問10 2008年の世界金融危機（リーマン・ショック）が日本経済に与えた影響を説明したものとして、背景や因果関係が正しいものはどれですか。 (2017年 東京都公立入試 類似)
1. 東日本大震災の復興需要によって経済成長率が下支えされ、失業率は低下傾向に転じた。

2. 急激な円高の進行や世界的な需要の減少により、輸出産業が打撃を受けて景気が後退した。

3. 円安が急速に進んだことで輸出企業の利益が増大したが、輸入コストの増大でデフレが進行した。

4. アメリカからの投資資金が日本国内へ大量に流入したため、株価が上昇し製造業が活発化した。
- 問11 日本における唯一の中央銀行であり、一国の金融組織の中核を担う銀行を何といいますか。 (2020年 山形県公立入試 類似)
1. 信託銀行

2. 日本政策金融公庫

3. ゆうちょ銀行

4. 日本銀行
- 問12 企業や商店が事業資金を確保する際、銀行などの金融機関が仲介役となり、預金者から集めた資金を貸し出す仕組みを何といいますか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 直接金融

2. クラウドファンディング

3. 間接金融

4. 株式公開
- 問13 銀行が主な収益を得る仕組みにおいて、預金者に対して支払う利子と、融資先から受け取る利子の関係についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 預金に支払う利子と融資で受け取る利子を常に同額にし、窓口での事務手数料のみを収益とする。

2. 利子のやり取りは行わず、政府から支給される補助金のみを銀行の運営資金とする。

3. 預金に支払う利子の利率を、融資で受け取る利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。

4. 融資で受け取る利子の利率を、預金に支払う利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 預金から貸し出しまでの仲介に伴うコストや、銀行自身の利益を確保するため	銀行は預金者から集めた資金を運用する際、貸出利息と預金利息の差額（利ざや）を得ることで、人件費や店舗の維持費などの運営費用を賄い、利益を出しています。この仕組みがあることで、預金者は企業に直接貸し出すリスクを負わずに、銀行を通じて間接的に資金を供給することが可能になっています。
問2	答え 4 貸し出す際の利子の方が、預金者に支払う利子よりも高く設定されている。	金融機関は、預金として集めた資金を必要とする人や企業に貸し出す「間接金融」の役割を担っています。この際、貸し出す際の利子（金利）を預金者に支払う利子よりも高く設定することで、その差額を銀行の運営費用や利益としています。この仕組みによって、金融機関は持続的な経営が可能となります。
問3	答え 3 日本銀行が銀行から国債を買い取ることで、銀行が保有する資金量を増やし、金利を下げさせることで経済活動を活発にする。	景気が悪いとき、日本銀行は「買いオペレーション（公開市場操作）」を行います。これは一般の銀行から国債を買い取ることで、代金として現金を供給し、世の中に出回る通貨量を増やす仕組みです。銀行の資金が豊富になれば、企業への貸し出し競争が起き、金利が低下します。その結果、企業は設備投資がしやすくなり、家計も消費を増やしやすくなるため、景気は回復に向かいます。選択肢にある増税や公共事業は「財政政策」であり、日本銀行が行う「金融政策」とは区別されます。
問4	答え 1 買いオペレーション	景気が停滞している局面では、日本銀行は市場に資金を供給して景気を下支えします。日本銀行が債券市場で国債を「買う」ことで、銀行の手元資金を増やし、世の中全体の通貨量を増大させるこの仕組みを「買いオペレーション」と呼びます。対して、好景気で物価高が懸念される際に行われるのが「売りオペレーション」です。
問5	答え 4 市場に流通する通貨量を増やすことで、企業が資金を借りやすくし、景気を向上させるため	買いオペレーションは、日本銀行が代金を支払って国債を買い上げることで、市場（民間金融機関）に資金を供給する仕組みです。市場の通貨量が増えると金利が下がり、企業や個人が銀行からお金を借りやすくなります。その結果、設備投資や消費が刺激され、停滞している景気を向上させる効果が期待されます。
問6	答え 2 日本銀行が保有する国債を民間銀行に売却し、市場の資金を吸収することで、企業への貸し出しを抑制し景気を冷やす。	景気が過熱しているとき、日本銀行は市場の通貨量を減らす「売りオペレーション」を行います。日本銀行が持つ国債を民間銀行に売ると、民間銀行から日本銀行へ代金が支払われます。これにより、民間銀行が保有する資金が減るため、企業への貸し出しが減少し、金利が上昇します。結果として、過剰な投資や消費が抑えられ、物価の安定（景気の鎮静化）が図られます。政府による増税などは「財政政策」であり、中央銀行が行う「金融政策」とは区別する必要があります。
問7	答え 4 利子率（金利）が下がり、企業の設備投資や個人の消費が促される。	市場に流通する通貨の量が増えると、お金の希少価値が下がるため、銀行が資金を貸し出す際の利子率（金利）は低下します。金利が下がれば、企業は事業拡大のための資金を借りやすくなり、個人もローンを組みやすくなるため、社会全体の投資や消費が活発になり、景気が上向くことが期待されます。
問8	答え 4 情報通信技術（ICT）を活用することで、振込や決済などの金融サービスをより迅速かつ低コストで利用できるようになります。	金融と情報通信技術（ICT）を組み合わせることで、従来の金融機関の窓口に足を運ぶことなく、スマートフォンなどを通じて手軽で迅速な決済や送金などが可能になります。
問9	答え 1 自分の欲しいものと相手の欲しいものが一致しなくても、貨幣を介することで取引が可能になった。	物物交換では「自分が持っているもの」と「相手が欲しいがっているもの」が完全に一致しなければ取引が成立しませんでした。しかし、貨幣が交換手段として機能することで、いったん商品や貨幣に換え、その貨幣を用いて別の場所や時間で自分が必要なものを手に入れることができるようになりました。このように、貨幣は交換の不一致を解消し、取引を円滑にする背景を持っています。
問10	答え 2 急激な円高の進行や世界的な需要の減少により、輸出産業が打撃を受けて景気が後退した。	世界金融危機の発生後、投資家が比較的安全とされる円を買ったことで急激な円高が進行しました。これに加え、主要な輸出先である欧米の景気が冷え込んだため、日本の自動車や電気機器などの輸出が大幅に減少しました。その結果、製造業の不振から派遣切りなどの雇用不安が広がり、失業率の上昇やデフレの深刻化といった深刻な景気後退を招きました。東日本大震災が発生したのは、リーマン・ショックから数年後の2011年です。
問11	答え 4 日本銀行	中央銀行は、国の経済が安定するように通貨の量を調節したり、金融システムを維持したりする特別な役割を持つ銀行です。日本では日本銀行がその役割を担っており、一般の個人や企業が直接口座を作ってお金を預けることはできないという点が、民間の銀行（市中銀行）と大きく異なります。
問12	答え 3 間接金融	資金の出し手である預金者と、借り手である企業などの間に銀行が入り、融資という形で資金を仲介する仕組みです。預金者は銀行に資金を預け、銀行がその資金を運用して企業に貸し出すため、貸し手と借り手が直接取引をしないことが特徴です。
問13	答え 4 融資で受け取る利子の利率を、預金に支払う利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。	銀行などの金融機関は、多くの人々から預金として資金を集め、それを必要とする企業などに貸し出します。このとき、貸し出す際の利子（貸出金利）を預金者に支払う利子（預金金利）よりも高く設定することで、その差額（利ざや）を主な利益としています。これにより、銀行は組織を維持し、預金通帳の発行や振り込みといった金融サービスを提供することができます。